



## 有り難さの実感

校長 小林 理人

これまで当たり前に出たり、手に入れたりしていたことができなくなり、日常の有り難さを痛感する出来事が多くなりました。そして、その原因を考えたり、そのことを受け入れたりすることが、未来への扉を開く鍵や、未来へと続く道を拓く道標を得ることにつながるのかもしれません。



**3月2日(月)**、前代未聞の全国一斉臨時休業が突然始まりました。3月の授業日数は、2日の登校日と修了式、卒業式の3日間(6年生以外は2日間)となりました。これまで、準備や計画を進めてきた年度末の諸行事が中止になり、恒例の「感謝の集い」や「1/2成人式」など、成長の喜びを味わったり、感謝を伝え合ったりする活動ができなくなりました。また、これまで身に付けた力を活かして行うまとめの学習や、出来るようになったことを確かめて、達成感や成就感を味わう活動も中途半端に終わりました。全て、受け入れなくてはならない現実ですが、子供たちや保護者の皆様、そして、教職員の気持ちを考えると悔しく、悲しい思いで心が痛くなりました。

保護者の皆様にとってもこの3週間は、これらの現実と向き合い、様々な苦労や不安を感じることもあったことでしょう。学校として十分な対応ができない中、大きな混乱や事故等もなく、修了式を迎えることができました。保護者、地域の皆様の深い理解と温かい協力で心から感謝いたします。

子供たちが登校できない3週間、私たちが考えたことは、子供たちが主役となり全力で創り上げたこの1年間でどのように締めくくっていくかということでした。修了式で一人一人に手渡すあゆみに担任の思いを込めたり、修了式や卒業式などの限られた時間の過ごし方を考え、準備等をしたりすることに多くの時間を費やしました。そして、そのことを進める中で得たこともあります。

それは、当たり前で過ごしていた日常の意味や価値を考え、その有り難さを実感できたことです。子供たちが、毎日登校してくることや、子供たちの成長を促す活動や授業を行うことなど、日常ではあまり意識することがなかった当たり前のことの有り難さを改めて感じることができました。

今日は、校内放送で修了式を行いました。私は、そのことを子供たちに伝えました。そして、臨時休業中に感じた日常の有り難さや、改めて考えたり感じたりした日常の意味や価値を、4月から始まる生活や学習に活かそうと呼びかけました。

**二小桜も咲きそろい**、明日は小学校生活を締めくくる卒業式です。限られた時間や制約された環境で行うこれまで経験したことがない卒業式です。しかし、不安はありません。これまで身に付けた力を発揮し、絆を深めた友達とともに、保護者の皆様の愛に包まれ、今できる最高の卒業式を創ります。

**結び**になりますが、一年間、子供たち、そして国立二小を支え励ましてくださった皆様に感謝いたします。4月からは創立70周年となる1年が始まります。二小にとって節目となる1年を、保護者、地域の皆様に支えていただきながら、主役である子供たちとともに創ります。